

平成 30 年度 公益財団法人きょうと京北ふるさと公社事業報告書  
平成 30 年 4 月 1 日 ～ 平成 31 年 3 月 31 日  
(第 6 期)

## I 総括

発足以来 17 年目となり、公益財団法人へ以降後 6 期目となる平成 30 年度は、高齢化と後継者不足による農業離れが一層深刻化する京北地域に於いて、公社の行う公益事業の柱として、農地と地域農業を守る役割を果たすため、それらの地域課題対策に積極的に取り組みました。優良農地の保全や農業を守る担い手農家の確保・育成に具体的に取るため、昨年京都府が主催する農林漁業就業相談会に於いて相談のあった 1 名を、当年度は公社の嘱託職員として採用し、新規就農者として 1 年後を目途に自立出来るよう育成に取り組んだ結果、平成 31 年 4 月から地域農業の後継者として自立する事となりました。

農業離れが深刻化するなか、農地売買や農地貸借など農地に係る相談を受ける事も多くなり、農地利用集積円滑化団体として、担い手農家の規模拡大や効率的な農業を進めるための事業である、『農地利用集積円滑化事業』による農地集積も、実績として現在 10 筆を超える農地が公社の中間保有となっており、平成 31 年度には全て売り渡す運びとなっています。

他にも公益事業では、今後の地域活性化につながる取り組みとして、昨年度立ち上げられた「京都京北・農山村未来かがやき創生推進協議会」の事業である、精米プラント「米工房」や、美味しい京北米を PR するための京北ブランド米の取り組みに、構成団体の一員として積極的に関わってまいりました。

今後「地産地消」「食育」の取り組みである、京北地域内 3 小学校への米飯給食用の京北ブランド米としての供給や、地域外への販路拡大に取り組み、地域特産物としての販売促進に努めます。

地域交通事業部では、地域唯一の公共交通機関として運行している京北ふるさとバスの運行が、将来に亘って存続できるよう、乗車人員の確保のための社会実験の結果に基づく種々の取組みにより、昨年以上の乗車実績と運賃収入を得る事ができました。

ふるさとバスの運行は『公共交通空白地有償運送事業』として行なっており、「空白地有償運送協議会」において、平成 34 年 3 月末日までの 3 年間運行期間も更新されました。また、令和 2 年 4 月に開校される「京都京北小中学校」への登下校に伴うシミュレーションにも協力いたしました。

公益事業を補完するための収益事業について、貸館事業での、上弓削町越木の『田舎ぐらし体験施設』では、10 年間の契約により、安定した使用料収益を得る事となりましたが、公社施設の葬祭での利用が年間で 15 件と激減し、公社全体の運営に大きく影響を及ぼす結果となりました。

京都市の指定管理者として施設の管理運営を預かっている「道の駅ウッディー京北」並びに「京都市宇津峡公園」については、結果的に 7 月の豪雨から 9 月の大型台風による自然災害により、長期に亘る施設の停電や施設への道路が不通になるなど、利用いただけなかった状況が最後まで影響し、両施設とも来客数、収入実績において昨年を上回る事ができませんでした。

なお、両施設については引き続き平成 35 年 3 月末日まで指定管理者として認定され、指定管理業務を行える事になり、本公社運営の要として貸館事業とともに、公益事業を補完する収益事業(ウッディー京北は喫茶部門)として、健全な管理運営

と収益確保に努める一方で、地域の人々や組織との連携による地域密着型の施設運営に努める事となりました。

平成 30 年度も、実情に即した事業収支予算計画により、当初よりマイナス予算でスタートしており、決算で結果が残せるよう、公益事業、収益事業を問わず原価意識と収益確保を意識して取り組んでまいりましたが、予算対比としては良好であったものの、結果として事業収支をプラス収支で締めくくる事ができませんでした。

## II 理事会・評議員会の開催

### 《 理事会 》

第1回理事会 平成30年5月11日(金)

- 平成29年度 事業報告書の承認の件
- 平成29年度 会計決算報告書の承認の件
- スクールバスの委託料変更に伴う平成30年度補正予算(第1号)(案)の承認について
- 外郭団体への出資について
- 減価償却引き当て資産の取り崩しについて
- 平成30年度 第1回評議員会開催の件

第2回理事会 平成30年9月20日(木)

- 追加事業の取組みと当初予算の見直しに伴う補正予算(第2号)(案)の承認について

第3回理事会 平成31年3月14日(木)

- 平成30年度 公益財団法人きょうと京北ふるさと公社補正予算(第3号)(案)の承認について
- 平成31年度 事業計画(案)の承認の件
- 平成31年度 収支予算(案)の承認の件
- 平成30年度 第2回評議員会開催の件

### 《 評議員会 》

第1回評議員会 平成30年5月28日(月)

- 平成29年度 事業報告書の承認の件
- 平成29年度 会計決算報告書の承認の件
- 辞任に伴う評議員の選任について

第2回評議員会 平成31年3月22日(金)

- 平成31年度 事業計画(案)の承認の件
- 平成31年度 収支予算(案)の承認の件
- 平成31年度 役員報酬総額の承認について

### Ⅲ 平成 30 年度 主要事業の内容

#### 1. 管理部門

将来を見据え、地域からの期待や要望に応えられる計画的な施設や組織整備、経営の改善等、健全な公社作りのために取り組んでまいりました。

##### 【施設整備】

耐震対策に伴う公社の建替えについては、新規就農者支援対策も目的とした京北の「農の学校」として、「過疎地域自立促進特別措置法」の基で実現されるよう、従来京都市所管課と具体案を検討してまいりましたが、平成 30 年度に於いても予算化されることはなく、耐震対策も含め公社の施設整備はなされず残念な結果となりました。

今後は、公社の事業展開や道の駅の整備など、地域内の遊休施設の活用と併せ進める方向となっています。

##### 【組織強化】

定款や各種規程を遵守し、定期的な所属長・出納責任者会議も開催するなか、管理者の資質向上に取り組みました。

また、安定した経営を行っていくために、収支を重視し事業別に採算の取れる事業運営に取り組んでまいりましたが、3 期に亘り平成 30 年度についても事業収支は厳しい結果となりました。

##### 【その他】

公社事業の紹介や事業利用を促すため、機関紙である「ほくほくだより」を 2 回発行いたしました。

#### 2. 事業部門

##### (1) 農地利用集積円滑化事業

京北地域の農地・農業に関する事業は、今後、ますます重要視される事業であり、本公社としては、農業公社としての役割を果たすため、本事業を公社事業の柱として取り組むとともに、農地利用集積円滑化団体として、農地の「中間保有・再配分機能」を活かし、担い手農家の経営規模拡大や新規就農者への支援活動につながるよう積極的に取り組んでまいりました。

なお、事務手続き上、利用権設定による農地の貸し借りや、農地売買については、時間がかかるため、平成 31 年度の実績となる継続物件も抱えています。

〔農地利用集積円滑化事業実績〕 ※ 平成 30 年 4 月 1 日～平成 31 年 3 月 31 日迄

◇ 平成 31 年 4 月 1 日現在の継続物件	
一時保有農地件数	11 件
◇ 買入れ農地（田）	
件数	11 件
◇ 売り渡し農地（田）	
件数	0 件
◇ 平成 30 年度末の平成 31 年度への継続物件	
手続き中の物件数	11 件
◇ 利用権設定	
件数	14 件

## (2) 田舎の便利屋事業

### 【地域担い手確保事業】

地域の方々からの幅広い要望に応えるため、田舎の便利屋事業として多種多様な作業を受託し、リストによる人材登録者への作業依頼により取り組みを進めました。農作業（草刈り、獣害フェンス設置等）を中心に、出来る限り多くの依頼に応えられるよう、登録者への依頼も偏ることの無いよう取り組んでまいりましたが、作業者の高齢化と新しい人材登録者不足等により、以前の作業が受けられない、一度に多くの人材が必要な作業依頼には対応できない状況が生じ、今後に課題を残す現状となっています。

平成 30 年度の事業実績としては、受託件数は減少しましたが、受託金額はほぼ前年並みの結果を残すことができました。

- ◇ 登録者数（平成 31 年 3 月 31 日現在）  
138 人（60 歳以上 78 人、60 歳未満 57 人、団体等 3 団体）
- ◇ 受託件数（平成 31 年 3 月 31 日現在）  
329 件（前年度 416 件）
- ◇ 作業延べ人数（平成 30 年 4 月～平成 31 年 3 月末）  
2,500 人（前年度 2,448 人）
- ◇ 受託金額（平成 30 年 4 月～平成 31 年 3 月末）  
28,299,370 円（前年度 28,039,492 円）

### 【農作業受託事業】

農業者(農家)の高齢化による農作業依頼に対応するため、農作業受託部会による春作業(畦付け・耕起・代かき・田植え等)並びに、秋作業(稲刈り・籾運搬・肥料散布・耕起等)の受託に取り組みました。

#### 〔農作業受託実績〕

- ◇ 春作業（受託件数 138 件）

耕 起	20 件	322a（再耕起含む）
代 か き	19 件	317.17 a（ハロー、ロータリー含む）
田 植 え	22 件	378.9a
畦 付 け	11 件	1,883m
そ の 他	66 件	苗運び、肥料散布等
  
- ◇ 秋作業（受託件数 116 件）

隅 刈 り	09 件	14 枚
刈 取 り	20 件	380.47 a
籾 運 搬	29 件	28837.4 kg
耕 起	13 件	214.5 a（ディスク、ロータリー含む）
そ の 他	45 件	肥料散布、乾燥、籾摺り 他

### (3) 地域活性化事業

#### 【地域特産物開発研究事業】

今年度の道の駅ウッディー京北は、加工食品を積極的に取扱い、加工食品の取扱高は、過去最高となりました。

「地産地消」と「食育」の取り組みについては、(公財)京都市学校給食協会と連携し、京北特産の「京北まごころ味噌」を市内各小学校でも使用いただいております。取扱高、量共に伸ばすことができました。米飯給食用の「コシヒカリ」は、前年度の倍に当たる 2,421kg を供給することができました。

しかしながら、大雨や台風の影響により野菜の取扱いは、前年度以上の実績を伸ばすことはできませんでした。

なお、公社に管理を依頼されている農地(井戸、辻、上弓削、熊田)においては、平成 30 年度も米を中心に農産物を独自栽培し、学校給食への提供、ウッディー京北や各イベントでの販売を行うことができました。

道の駅ウッディー京北での春先に於ける野菜不足は、依然として課題であり、生産者への協力依頼と併せ、新しい生産者確保による生産増の取り組み、公社が設置したビニールハウスの有効活用等により、今後もその対策に取り組まなければなりません。

- ◇ 道の駅ウッディー京北委託販売者会員数 (平成 31 年 3 月 31 日現在)  
183 名  
※ 内、生鮮食品販売者 102 名 加工食品販売者 38 名
- ◇ 道の駅ウッディー京北加工食品販売高 (平成 30 年 4 月～平成 31 年 3 月末)  
52,916,806 円 (前年度実績 49,904,635 円)
- ◇ 道の駅ウッディー京北野菜販売高 (平成 30 年 4 月～平成 31 年 3 月末)  
25,974,336 円 (前年度実績 27,138,442 円)
  
- ◇ 学校給食地産品取扱高 5,974,264 円 (平成 30 年 4 月～平成 31 年 3 月末)  
野菜 456,739 円 (前年度実績 531,564 円)  
納品総重量 949.kg (前年度実績 1,172 kg)  
米 919,904 円 (前年度実績 457,520 円)  
納品総重量 2421kg (前年度実績 1,204 kg)  
味噌 5,160,600 円 (前年度実績 4,985,180 円)  
納品総重量 8,450kg (前年度実績 8,170kg)

#### 【ふるさと振興等調査研究事業】

京北地域への定住促進を図るため、空き家情報の提供による相談者への対応に取り組むとともに、12 年目となる「市民農園」の運営に取り組み、農園利用者との交流と地域活性化並びに農地の活用を図りました。

##### ① 空き家情報の提供による定住促進

京北地域には、250 戸を超える空き家があるにもかかわらず、空き家の提供は、ごく僅かであるため、就農と併せた定住相談を随時、受けて参りましたが、相談者の要望を満たし、十分な対応が出来ない状況であります。農地とあわせた具体的な相談件数としては、3 件のみで、満足な結果を残すことはできませんでした。

- ◇ 平成 30 年度取り組み実績（平成 30 年 4 月～平成 31 年 3 月末）  
相談受付件数 3 件

② 市民農園「京北ふるさと農園さんりょう」の利用者拡大と運営

開園 12 年目となる市民農園では、地域活性化の一環として京北地域へ来ていただけるよう取り組みました。

利用については、現利用者の高齢化による契約解除や、複数区画契約者の減少にあります。

そのような現状の中、年間を通じ市街地へのイベント出店時に利用者の募集も行い、最終的に平成 30 年度の実績としては、利用者は 14 名で利用区画については昨年より減少し 23 区画の利用となりました。

恒例となっている秋の収穫祭では、農作物の品評会を行い、昼食時には農園利用者、地元寺山地域の住民の方々、懇談会を行い、たき込みご飯や猪鍋などで昼食をとりながら、交流を深めることができました。

- ◇ 平成 30 年度「市民農園」利用実績

- 募集区画数 …… 57 区画

- 利用区画数及び利用者数 …… 23 区画、14 名

- ※ 平成 29 年度 26 区画、18 名

- 年間利用料 …… 一区画(約 40 m<sup>2</sup>)当たり 15,000 円

- ◇ 市民農園でのイベント

- 収穫祭 …… 実施日：11 月 17 日

- 参加者：約 30 名

- (農園利用者、地域住民、関係者(京都市、JA、公社))

【都市と農山村交流事業】

都市住民との交流により地域活性化を図るため、年間計画として市民農園や道の駅ウッディー京北等でのイベントを開催し、都市住民を京北地域に呼び込むとともに、他地域でのイベントにも積極的に参加し京北地域の PR 活動に努めました。

[平成 30 年 4 月～平成 31 年 3 月末 主催イベント]

- ◇ 市民農園 (1 回)

- ・ 11 月 17 日 市民農園収穫祭  
内容：品評会・昼食を囲んでの交流・ポン菓子  
猪鍋・炊き込みご飯・焼き芋

- ◇ 道の駅ウッディー京北

- ・ 5 月 3～6 日 GW 期間限定イベント  
内容：委託販売者による店頭販売
  - ・ 定期的な土日イベント (47 回)  
内容：委託販売者による店頭販売

[平成30年4月～平成31年3月末 参加イベント]

◇ 京北地域内 (3回)

- ・ 8月16日 京北夏まつり  
内容：かき氷、ラムネ販売
- ・ 11月3日 京北ふるさと祭り  
内容：野菜販売・鹿肉カレー販売
- ・ 10月28日 秋の感謝祭 (ウッディー京北)  
内容：振る舞い餅、特産品販売

◇ 京北地域外 (9回)

- ・ 5月27日 龍安寺イベント (龍安寺参道)  
内容：野菜販売等
- ・ 9月25日 みんなのスポーツフェスタ (わかさスタジアム)  
内容：特産品の販売
- ・ 10月21日 深草ふれあいフェスタ (藤ノ森神社)  
内容：野菜等の販売
- ・ 10月27日 右京区民ふれあいフェスティバル (太秦安井公園)  
内容：野菜販売・鹿カレー販売
- ・ 11月18日 龍安寺イベント (龍安寺参道)  
内容：野菜販売等
- ・ 11月21日 護王神社子宝芋イベント (護王神社境内)  
内容：子宝芋の販売と鍋の振舞い
- ・ 11月25日 右京区役所 右京マルシェ (サンサ右京)  
内容：野菜の販売
- ・ 12月01日 西日本 JR バス祭り (西日本 JR バス京都営業所)  
内容：野菜の販売
- ・ 12月08日 京の農林秋まつり (岡崎公園)  
内容：野菜・玉子かけごはん・焼き芋の販売

※ 毎週火曜日 三条名店街 京北出張所 売出しへ商品提供 (7/17～)

#### (4) 地域交通事業

##### 【京北ふるさとバス】

地域唯一の公的交通手段として、「公共交通空白地有償運送事業」の登録を受け、地域住民の安全・安心な“足”となるよう、京都市との連携のもとふるさとバスの運行に取り組んでまいりました。

年間を通じて安全なバス運行を行うため、自動車事故対策機構が行う、運転者適性診断の受診や公安委員会が実施する法定講習会に積極的に参加し、月一度のミーティングで学んだ知識を乗務員全員で共有できるよう取り組むとともに、地域バス案内所に於ける、京北地域をはじめ、南丹市営バスや西日本ジェイアールバスの交通案内や観光に関する問い合わせ対応、定期券の発券、共通回数券の販売など、お客様の利便性を図る取り組みも継続して行っていました。

しかしながら、ふるさとバスの状況としては、中学生の通学に伴う乗車が、運営に大きく影響することとなっており、少子高齢化の地域の実態から年々厳しい運営状況となっています。

そのため、平成30年度も将来に亘って存続可能で地域住民に必要で、利便



性のある効率的なバスの運行を行うために、平成 26 年度から継続して取り組まれてきた乗車人員の減少を防ぐ社会実験に取り組んでまいりました。平成 29 年度は、土日・祝日限定で取り組みました「美山・京北バス旅ルート」を今年度は、毎日運行とし、曜日を気にせずご利用いただけるよう取り組みました。その結果を受け、運行収入は昨年対比で約 101%(約 20 万円)、乗車人員は、約 106%(約 4500 名)の増となり一定の結果を残すことができました。

今年 4 回目となる、11 月 3 日に取り組んだバス祭りでは、西日本ジェイアールバス(株)の他、京都バス(株)にも参加頂き、多くの子供連れの方にバスへの関心を深めていただきました。

また、12 月 1 日には「西日本ジェイアールバス(株)営業所まつり in 京都」に参加しジェイアールバス京都営業所にて、ふるさとバスの展示等を行い、地域外の方にも PR することが出来ました。

◇ 平成 30 年度運行実績 (平成 30 年 4 月～平成 31 年 3 月)		
乗車人員	75,997 人	(前年度実績 71,459 人)
運行収入	18,289,590 円	(前年度実績 18,056,050 円)

#### 【スクールバス】

京北地域の児童生徒の通学及び教育活動のため、京都市教育委員会から全面委託を受け、19,350,000 円の委託料により、スクールバス運行を行ってまいりました。

大型台風の影響により運休することもありましたが各小中学校京都市教育委員会との連携を密に図り、ふるさとバス同様安全運行を第一の目標に掲げ、事故を起こすことなく一年間運行することができました。

### (5) 公共施設管理事業

#### 【地域特産物需要拡大センター「道の駅ウッディー京北」管理運営事業】

ウッディー京北は、「道の駅」としての三つの機能(休憩機能・情報発信機能・地域の連携機能)を果しながら、委託販売事業(地域活性化や地域振興の拠点)と、公社運営に重要な収益事業である喫茶部門の 2 つの事業に取り組みました。

委託販売事業は、大雨や台風などにより農産物の生産が厳しい中で、加工食品の生産者の方々に、頑張っていたいただきましたが、昨年を上回る実績とはなりません。喫茶部門については、新メニューの発案、自社のお弁当販売により、昨年を上回る実績を残せました。

◇ 来館者数		
	379,384 人	(前年度 410,501 人)
◇ レジ通過者		
	123,775 人	(前年度 129,543 人)
◇ 取扱額		
	154,554,167 円	(前年度 156,399,562 円)

◇ 分類別取扱明細

□ 加工食品	¥52,916,806	(前年度 ¥49,904,635 )
□ 農産品	¥48,411,487	(前年度 ¥52,616,778 )
□ 木工品等	¥12,240,876	(前年度 ¥12,265,857 )
□ 酒類	¥2,800,902	(前年度 ¥3,723,098 )
□ 喫茶	¥33,055,146	(前年度 ¥32,304,791 )
□ ソフト	¥5,128,950	(前年度 ¥5,584,403 )
合計	¥154,554,167	(前年度 ¥156,399,562 )

【宇津峡公園管理運営事業】

京都市指定管理者制度に基づく指定管理者として4年目の年であり、都市住民との交流施設として、京北の自然環境を生かしたアウトドアを楽しむ施設として管理運営し利用拡大に取組みました。

本年は7月の豪雨、9月の台風21号の接近による暴風水害は、公園施設も河川の増水によるデイキャンプ場の浸水をはじめ公園内の立木が倒れるなど、大きな被害となりました。また、台風による長期間の停電は利用者との連絡に大きな支障となりました。さらに夏場は災害規模の高温となり熱中症の心配により団体等の利用がキャンセルになるなど、大きな収益減の要因となりました。

豪雨により人口河川への送水ポンプの故障により、鮎つかみは河川での開催となり、場所が遠くなり体験者数は例年の半数近くとなりました。ラフティング体験も増水と道路の通行止めにより中止となるなど、自主事業の取組が大きく減少しました。

オートキャンプサイト利用は順調に増加状況となりましたが、コテージ棟利用は利用減となり、デイキャンプ利用も天候による影響も大きく減収益となりました。

宇津峡公園有料入園者数（平成30年4月～平成31年3月末）

10,945名（前年度実績 11,579名）  
 （大人 8,524名、小学生 2,421名）（未就学無料入園者 1,691名）

宇津峡公園収入金額（平成30年4月～平成31年3月末）

22,746,692円（前年度実績 23,324,191円）  
 利用料収入 18,724,950円 事業等収入 3,769,100円

コテージ棟利用数

568棟（前年度実績 613棟）

オートサイト利用数

847区画（前年度実績 757区画）

イベント等参加者数

鮎つかみ体験 507匹（前年度実績 861匹）

ラフティング体験 実施回数17回 体験者数329人（前年度 17回/438名）

うなぎつかみ体験 15匹（前年度 10匹）

ぼた餅づくり体験 4家族（前年度 5家族）

ハロウィンナイト 子供116名 大人124名（前年度 子供44名 大人90名）

ポイント入園実績

ポイント利用による入園者数 316名（累計1,077名）

(コテージ棟 36名、オートサイト 63名、デイキャンプ 217名)

## (6) 貸館事業

### 【葬祭関連事業】

地域の高齢化や核家族化が進み、住民意識も変化するなか、公益的な事業を補完し、ふるさと公社の安定経営に向けた財務基盤を確立するための貸館事業として取り組んでまいりましたが、葬儀形態も大きく移り変わる現状にあるため、情報紙等で家族葬対応が可能としておりますが、実績として前年よりも少ない15件の年間利用になりました。

#### ◇ 会場利用実績

平成30年4月～平成31年3月末までの利用件数	15件
オープン(平成16年)以降の累計	517件

### 【田舎くらし体験】

昨年度と同様に上弓削町越木に寄付いただいた土地・建物を有効活用するため、『田舎くらし体験施設』として10年間の賃貸借契約により利用いただき、収益事業として公社の安定した収益の確保に努めてまいりました。

## (7) 農産物処理加工施設整備事業 (大豆の里京北「第6次産業」化拠点施設整備事業)

平成24年度に施設が完成し、施設名称を『山国「水・土・里の館」』として、事業開始から6年が経過する中、京北まごころみその生産を中心に、納豆餅やその他農作物の加工生産及び販売に取り組んでまいりました。

実質の管理・運営は山国さきがけセンターが行っており、公社は事業主体として、施設に関連する減価償却などの事務処理関係についての役割を担っておりますが、当初より予定の公社から山国さきがけセンターへの施設譲渡については、さきがけセンターの運営状況を検討する中で、平成30年度内で方向付けをしたく京都市所管課と調整して参りました。

現在も、譲渡には至っておりませんが、京都市所管課との調整を引き続き続けて行きたいと考えています。

《参考》	平成30年度	京北まごころ味噌加工実績		
	仕込実績	13,380 kg	※ 前年度	36,750 kg
	売上実績	8,686,189 円	※ 前年度	8,003,925 円

## (8) 合併記念の森創設事業

京都市からの委託事業として平成25年度から受託しており、平成30年度は、6月から作業小屋の維持管理や周辺の草刈り作業等に取り組みました。

◇ 事業委託料 397,440 円

## (9) 山村地域担い手育成定着支援事業

平成27年度の補助事業により導入した農業機械を、地域の担い手農家や新規就農者へ貸借し、あるいは公社の管理農地での地元高校生の収穫体験に使用する

など有効的に活用いたしました。

※ 平成 27 年度の本事業による導入機械

5 条植え田植機 1 台、管理機 1 台、畦付機 1 台、  
自走式草刈機 1 台